



Ehtaplenの文法

コピュラ文(os A B)

| **os en pan** /オセンパン/ 「**私は人間です**」

| **os on pan** /オソンパン/ 「**あなたは人間です**」

| **os in pan** /オシンパン/ 「**それ(彼女/彼)は人間です**」

os A B: 「AはBです」 en: 「私」 on: 「あなた」 in: 「それ」 pan: 「人間」

ユームワテラの語順はVSO(動詞 主語 目的語)です。動詞は必ずsで、名詞は必ずnで終わります。

(ユームワテラに有生性はないので、「彼女/彼」も「それ」と表現されます。)

否定(on-)

| **onos en niwon** /オノセンニウオン/ 「**私は魚ではありません**」

| **os onen niwon** /オソネンニウオン/ 「**私は魚ではありません**」

on-: 「-ではない」 os A B: 「AはBです」 en: 「私」 niwon: 「魚」

否定文は語頭にonをつけることで表現します。動詞を否定しても、名詞を否定しても否定文になります。否定する箇所によって話し手の焦点がわかります。

形容詞述語文(-is A)

| knis niwon 「魚はかわいい」

| niwon knis 「かわいい魚」

knis A: 「Aはかわいい」 niwon: 「魚」

「かわいい」は名詞ではないのでosを使うことができません。「○○はかわいい」と言いたいときは、「Aはかわいい」という1項動詞を使います。動詞を名詞の後に置くと名詞を修飾できます。

自動詞文(-is A)

| pis pan 「人は寝る」

| pan pis 「寝る人」

pis A: 「Aは寝る」 en: 「私」

自動詞も項を1つとるので形容詞と同じ1項動詞です。自動詞も名詞の後に置くと名詞を修飾できます。

他動詞文(-es A B)

| mes en niwon 「私は魚を食べる」

| mes en niwon gunis 「私はおいしい魚を食べる」

mes A B: 「AはBを食べる」 en: 「私」 niwon: 「魚」 gunis: 「おいしい」

目的語を示して、〇〇を～すると言いたいときは他動詞を使います。他動詞は後ろに名詞が2つ続き、1つ目が主語、2つ目が目的語になります。他動詞の末尾は-esです。他動詞は、「おいしい魚」のような1項動詞で作った句も目的語としてとることができます。

2項動詞の句(A -es B C)

| pan mes in niwon 「魚を食べる人」

| pan mes niwon in 「魚に食べられる人」

pan: 「人」 mes A B: 「AはBを食べる」 in: 「それ」 niwon: 「魚」

非修飾名詞+2項動詞+句の主語+句の目的語の形で、2項動詞の節ができます。非修飾名詞と句の主語が同じ時は、ふつう句の主語in「それ」を使います。受動態を表現したいときは、句の主語と句の目的語を交代します。

| pan mes ipolan is niwon 「その手で魚を食べる人」

pan: 「人」 mes A B: 「AはBを食べる」 ipolan: 「手」 is: 「その」 niwon: 「魚」

句の主語と被修飾名詞が一致しないときは、in(: それ)の代わりに句の主語を明示して書きます。その場合、被修飾名詞との関係を示すためにis(: その)を書くことが多いです。

可換2項動詞文(-os A B)

| kos pan niwon 「人と魚は違う」

kos A B: 「AはBと違う」 pan: 「人」 niwon: 「魚」

2つの項を交換しても意味の変わらない2項動詞は末尾が-osになります。冒頭に登場したコンピュータの"os"もこの仲間です。

可換2項動詞の句(A -os B)

olos pan niwon 「人と魚は似ている」

pan olos niwon 「魚に似た人」

olos A B: 「AとBは似ている」 pan: 「人」 niwon: 「魚」

可換2項動詞は項を交換しても意味が変わらないため、句を作るときは名詞を一つだけ続けます。

3項動詞文(-as A B C)

plas en niwon pan 「私は魚を人に変える」

plas A B C: 「AはBをCに変える」 en: 「私」 in: 「それ」 niwon: 「魚」

「変える」のように、3つの項を要求する動詞は末尾が-asになります。

疑問文(en-)

enos in niwon? /エノシンニウォン?/ 「それは魚ですか？」

en-: 「- ?」 os A B: 「AはBです」 in: 「それ」 niwon: 「魚」

疑問文は文頭にenをつけることで表現します

kus, os in niwon /クス、オシンニウォン/ 「はい、それは魚です」

ankus, anos in niwon /アックス、アノシンニウォン/ 「いいえ、それは魚ではありません」

肯定の返事はkus、否定の返事はankusです

否定疑問文(enon-)

enonos in niwon /エノノシンニウォン?/ 「それは魚ではないのですか?」

疑問のenは否定のanの前に来ます

kus, onos in niwon /クス、オノシンニウォン/ 「はい、魚ではありません」

否定疑問文の返答は、回答が否定のとき肯定語を回答し「はい、〇〇ではありません」か「いいえ、〇〇です」のどちらかになります。日本語と同じです。

疑問詞疑問文(an)

os in an? /オスィナン?/ 「それは何ですか?」

en-: 「- ?」 *in*: 「それ」 *an*: 「何」

項をanで置き換えると、項の内容を聞くことができます

as on ? /アソン?/ 「あなたは何をしますか?」

動詞を置き換えることもできます

過去時制(-ns)、未来時制(-ls)

es en tekollan 「私は仕事をする」

ens en tekollan 「私は仕事をした」

els en tekollan 「私は仕事をするでしょう」

tekollan: 「仕事」

動詞の末尾をnsにすると過去時制、lsにすると未来時制になります。

継続相(-ps)、完了相(-ks)

| es en tekollan 「私は仕事をする」

| **eps** en tekollan 「私は仕事をしている」

| **eks** en tekollan 「私は仕事をし終わった」

動詞の末尾をpsにすると進行相になり、ksにすると完了相になります。

過去進行(-nps)、過去完了(-nks)、未来進行(-lps)、未来完了(-lks)、

| **enps** en tekollan 「私は仕事をしていた」

| **enks** en tekollan 「私は仕事をし終わっていた」

| **elps** en tekollan 「私は仕事をしているだろう」

| **elks** en tekollan 「私は仕事をし終わっているだろう」

時制と相を併用するときはnpsやlksのように、時制→相の順になります。

場所(los -), (lus -)

| htis **los miklan** niwon 「魚は**海**に住んでいます」

htis: 「住んでいる」 miklan: 「海」

動作が行われた場所を表現するときは、動詞の直後にlosを置いて場所の名前を続けます。

| niwon **los miklan** 「**海**にいる魚」

名詞の直後にlos+場所を続けると、物のある場所を表現できます。

| htis niwon, **lus miklan** 「魚は住んでいます、**海に**」

発言の最中に場所の情報を言い足したくなったときは、lusを置いて場所の名前を続けます。lusは文のどこで使っても文の先頭の動作が修飾されます。

時間(yes -), (yus -)

| plos **yos homezan** en niwon 「私は**昨日**魚に会った」

plos A B: 「AとBが会う」 homezan: 「昨日」 en: 「私」 niwon: 「魚」

動作が行われた時間を表現するときは、動詞の直後にyesを置いて時間の名前を続けます。

| niwon **yes yomin** 「**未来の**魚」

yomin: 「未来」

名詞の直後yes+ 時間を続けると、時間で修飾できます。

| plos en niwon **yus homezan** 「私は魚に会った、**昨日**」

plos A B: 「AとBが会う」 en: 「私」 niwon: 「魚」 homezan: 「昨日」

発言の最中に時間の情報を言い足したくなったときは、yusを置いて時間の名前を続けます。yusは文のどこで使っても文の先頭の動作が修飾されます。

並列(-st -s, -nt -n)

| knist jis niwon 「魚は**かわいくて小さい**」

| knis niwont pan 「**魚と人間はかわいい**」

knis: 「かわいい」 chepis: 「速い」 niwon: 「魚」

動詞の末尾をsからstにすると、もう一つ動詞を続けることができます。名詞の末尾をnからntにすると、もう一つ名詞を続けることができます。三つ以上の並列表現でもtを足していけば何回でも続けることができます。

接続

中立の接続

knis niwon. **tus** knis pan 「魚はかわいい、そして、人間もかわいい」

knis: 「かわいい」 niwon: 「魚」 tus: 「そして」 pan: 「人間」

中立の接続詞はtusです。

順接

knis niwon. **shus** knis pan 「魚はかわいい、だから、人間もかわいい」

knis: 「かわいい」 niwon: 「魚」 shus: 「だから」 pan: 「人間」

順接の接続詞はshusです。

理由、根拠

knis niwon. **shalus** knis pan 「魚はかわいい、なぜなら、人間もかわいいからだ」

knis: 「かわいい」 niwon: 「魚」 shalus: 「なぜなら」 pan: 「人間」

理由や根拠を表す接続詞はshalusです。shusと文の順序が逆になります。

逆接

knis niwon. **nus** onknis pan 「魚はかわいい、しかし、人間はかわいくない」

knis: 「かわいい」 niwon: 「魚」 nus: 「しかし」 pan: 「人間」

逆接の接続詞はnusです。

法(助動詞)

可能(-tos)

mekis niwon 「魚は泳ぐ」

mekitos niwon 「魚は泳げる」

mekis: 「泳ぐ」 niwon: 「魚」

動詞の末尾をsからtosにすると可能表現になります

onmekitos batolin 「キリンは泳げない」

batolin: 「キリン」

可能表現もanで否定できます

希求(-tis)

ples en niwon 「私は魚になる」

pletis en niwon 「私は魚になりたい」

ples A B: 「AがBになる」 en: 「私」 niwon: 「魚」

動詞の末尾をsからtisにすると希求法になります

命令(-tes)

| ples on niwon 「あなたは魚になる」

| pletes on niwon! 「あなたは魚になりなさい!」

ples A B: 「AがBになる」 on: 「あなた」 niwon: 「魚」

動詞の末尾をsからtesにすると命令法になります。

| pletes un niwon! 「魚になれ!」

ples A B: 「AがBになる」 un: 「あれ」 niwon: 「魚」

対象を省略したいときはun(: あれ)を代わりに入れます。

禁止(an-tes)

| onpletes un niwon! 「魚になるな!」

ples A B: 「AがBになる」 un: 「あれ」 niwon: 「魚」

命令文を否定すると禁止の表現になります。

仮定(-tas)

| pletas on niwon, bajilis man 「あなたが魚になれば、国は富む」

ples A B: 「AがBになる」 on: 「あなた」 niwon: 「魚」 bajilis: 「富む」

動詞の末尾をsからtasにすると仮定法(接続法)になります。直後に続く文が仮定の

推測(-tus)

| pletas on niwon, bajilitus man 「あなたが魚になれば、国は富むだろう」

ples A B: 「AがBになる」 on: 「あなた」 niwon: 「魚」 bajilis: 「富む」

動詞の末尾をsからtusにすると推測の文になります。

必要、義務(-tles)

| pletles en niwon 「私は魚にならなければいけない」

ples A B: 「AがBになる」 un: 「あれ」 niwon: 「魚」

動詞の末尾をsからtlesにすると必要や義務を表します。

推奨、提案(-tlas)

| pletelas on niwon 「あなたは魚になってみてはどうでしょう」

ples A B: 「AがBになる」 on: 「あなた」 niwon: 「魚」

動詞の末尾をsからtelasにすると推奨や提案を表します。

副詞(-s -s)

1項動詞の副詞(-s -is)

| mekis **chepis** niwon 「魚は**速く**泳ぐ」

| niwon **chepis** 「**速い**魚」

mekis: 「泳ぐ」 chapis: 「速い」 niwon: 「魚」

一項動詞(形容詞)のなかには動詞の直後に続けると動詞を修飾できるものがあります。
名詞を修飾することもできるので、辞書では副詞ではなく動詞として書かれています。

2項動詞の副詞(-s -es A B)

| knis **kefeles in pan** niwon 「魚は**人間よりも**かわいい」

| knis **kefeles pan in** niwon 「魚は**人間ほどではないが**かわいい」

knis: 「かわいい」 kefeles A B: 「AはBよりもすごい」 in: 「それ」 panniwon: 「魚」

二項動詞(他動詞)のなかには動詞の直後に続けると動詞を修飾できるものがあります。2項動詞で動作を修飾するときは修飾対象となる動作をinで表します。二つある項のうち、どちらをinにするかによって意味が変わります。

可換2項動詞の副詞(-s -os A)

| mekis **olos niwon** en 「私は魚みたいに泳ぐ」

| pan **olos niwon** 「魚みたいな人」

mekis: 「泳ぐ」 olos A B: 「AとBは似ている」 pan: 「人間」

可換2項動詞(-osで終わる動詞)は二つの項を入れ替えても意味が変わらないので、名詞を修飾するときと同じように副詞として動詞を修飾するときはinを常に省略します。

副詞を修飾する副詞(-s -s -s)

| mekis **chepis pelis niwon** 「魚はとても速く泳ぐ」

mekis: 「泳ぐ」 chapis A B: 「速く」 pelis: 「とても」 niwon: 「魚」

程度を表す表現など、副詞にさらに副詞が付くことがあります。

従属節(an-)

| wens in an “**os en pan**” 「「私は人間だ」と彼は言った」

wes: 「言う」 in: 「それ(彼)」 os: A B 「AはBだ」 en: 「私」 pan: 「人間」

文頭にanを付けると鍵括弧をつけたように文全体を句(節)にできます。

論理演算子

且つ(gus)

os in shilakan **gus** beusilan 「それはリンゴであり**且つ**みかんだ」

os A B: 「AはBだ」 in: 「それ」 shilakan: 「リンゴ」 gus: 「且つ」 beusilan: 「みかん」

または、若しくは(tsus)

os in shilakan **tsus** beusilan 「それはリンゴ**もしくは**みかんだ」

os A B: 「AはBだ」 in: 「それ」 shilakan: 「リンゴ」 tsus: 「もしくは」 beusilan: 「みかん」

Not(ous)

os in **ous** shilakan 「それはリンゴ**以外**のものだ」

os A B: 「AはBだ」 in: 「それ」 ous A: 「A以外のもの」 shilakan: 「リンゴ」